

福島酒蔵巡り資料



大天狗酒造

JR本宮駅に降り立つと目に入る、レンガづくりの煙突を目印に、徒歩1分。1872年（明治5年）創業の、市内唯一の酒蔵がある。倉庫として使っていた蔵の中を整理していたとき、最後にあけた行李の中から、ふたつの天狗の面がでてきたことに由来する銘柄、「大天狗」。安達太良山の伏流水と、地元産の米にこだわって仕込む酒の8割は、市内で消費されている。なかでも、勇ましい天狗の面のラベルが貼られた、普通酒<大天狗 精撰>が地元民の定番酒だ。



千駒酒造

馬市が盛んだった城下町、福島県白河市で、1924年（大正12年）に創業。現在の千駒酒造の基礎を築いた。白河市には4つの酒蔵があるが、この蔵も、白河市歴史的建造物に認定されている、風情ある外観だ。創業当時の越後杜氏の流れを受け継ぎながらも、長年地元で愛されてきた味わいと、時代の求める味わいを冷静に見極め、普通酒から大吟醸、純米大吟醸まで、豊富なラインナップの酒を造っている。



栄川酒造

四方を深い森に抱かれるように建つこの蔵の創業は、1896年（明治2年）。先代の宮森久治5代目当主が、より旨い酒づくりのために、昭和の末期に会津一円を歩き回り、探しあてた「瀧ヶ沢湧水」。酒づくりに最適な水を見つけ、磐梯山西麓の現在の地に蔵を移転することを決意した直後、この地の水が、日本名水百選に指定された。1988年（平成元年）に、この湧水群の一角に新工場を設立。近代設備を整えた上で、昔ながらの手作りを随所に残し、こだわりの水の恵みを生かした、酒づくりを行っている。



末廣酒造

古き藩政時代の面影を残す建物が点在している、街歩きが楽しい会津若松市内。そのなかでも、ひときわ目を引くのが、幕末の混乱の時代に生まれ、その後の会津の歴史と共に歩んできたこの蔵だ。創業1850年（嘉永3年）の創業以来、勇ましい鬼瓦に見守られてきたこの蔵は、現在7つの建物からなり、なかでも木造3階建ての建物の前には、自動車よりも、人力車が走っている方がじっくりくるような、圧倒的な存在感を放っている。



当主の林家は、会津藩御用達頭取を務めた永宝屋一族で、1794年(寛政6年)に分家創業し、永宝屋と称した。明治初期に、会津の象徴である鶴ヶ城の「鶴」と、猪苗代湖を表す「江」から、「鶴乃江」と改めた。1977年(昭和52年)、藩祖保科正之(徳川家光の弟)の官位にちなみ、<会津中將>を発表。守り続けてきた手作り製法にこだわりながらも、今の時代が求める味わいを追求し、軽快で甘みがある、香りのいい酒づくりを目指している。

七日町商店街付近のグルメ

レトロな街並みの中に色々なお店が散在しています。集合時間まで、散策を楽しみながら、色々なお店に立ち寄ってください。

- ・満田屋 和食、田楽
- ・パパガルド イタリアン
- ・お好み焼き双月 お好み焼き
- ・ラッキースマイル 喫茶、ハンバーガー
- ・あいづ家 鉄板焼き
- ・だるま 焼肉
- ・馬力本願 ラーメン
- ・ウーノ レストラン
- ・空山NEO七日町店 ラーメン
- ・中むら 蕎麦
- ・お食事処まり レストラン
- ・なぬか町茶房「結」 カフェ
- ・その他、下記のURLを参照してください

<https://travel-star.jp/posts/5217>



]

]